



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場会社名 シスメックス株式会社
コード番号 6869 URL <http://www.sysmex.co.jp>

上場取引所 東大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 家次 恒
問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 釜尾 幸俊

TEL 078-265-0500

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	101,383	4.6	15,192	11.3	15,568	17.7	9,518	10.9
24年3月期第3四半期	96,913	8.0	13,654	1.5	13,226	2.6	8,584	6.9

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 11,713百万円 (139.0%) 24年3月期第3四半期 4,900百万円 (3.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	92.49	92.19
24年3月期第3四半期	83.55	83.39

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	152,869	110,971	72.2	1,071.61
24年3月期	142,285	102,502	71.6	990.51

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 110,387百万円 24年3月期 101,833百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	15.00	—	19.00	34.00
25年3月期	—	17.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,000	3.9	20,000	4.1	19,500	1.9	12,100	0.8	117.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	103,229,016 株	24年3月期	103,027,016 株
25年3月期3Q	218,106 株	24年3月期	217,764 株
25年3月期3Q	102,910,309 株	24年3月期3Q	102,747,164 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 決算補足資料(和英)は平成25年2月5日(火)に、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表等	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景に、緩やかに回復しつつあります。海外におきましては、米国における財政緊縮への不安や欧州債務危機の長期化、中国での景気の緩やかな減速等の影響により、経済の先行き懸念が継続しています。

医療面におきましては、国内では、将来を見据えた医療と介護に関する構造改革を基本方針とする診療報酬改定が平成24年4月に実施されましたが、検体検査の領域では軽微な改定にとどまりました。欧米先進国では、医療費抑制と制度改革に取り組んでおり、スペインやイタリア等では緊縮財政措置として医療費削減を実施しています。米国では、無保険者の解消に向けた動きが本格化しています。また、中国では、都市・農村での医療サービスの格差解消を目指し、医療保険制度を含む医療制度改革が推進されています。一部に不安定要素は存在するものの、基本的に医療関連需要は底堅く推移しております。

このような状況の下、当社グループにおきましては、主力の血球計数検査分野における最上位モデルである多項目自動血球分析装置「XNシリーズ」について、平成24年7月に中国の国家食品薬品监督管理局（State Food and Drug Administration）、平成24年10月に米国食品医薬品局（U.S. Food and Drug Administration）の認可を取得しました。さらに、免疫血清検査分野の新モデルとして全自動免疫測定装置「HISCLE-5000」を平成24年12月より日本で発売しました。

<参考>地域別売上高

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前年同四半期比 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
国内	27,249	28.1	27,442	27.1	100.7
米州	20,925	21.6	21,050	20.8	100.6
欧州	27,694	28.6	27,743	27.4	100.2
中国	14,376	14.8	17,991	17.7	125.1
アジア・パシフィック	6,666	6.9	7,154	7.0	107.3
海外計	69,663	71.9	73,940	72.9	106.1
合計	96,913	100.0	101,383	100.0	104.6

国内販売につきましては、医療制度改革に伴う経営改善により大規模医療機関の設備投資は底堅く推移しており、ソリューション提案を引き続き推進した結果、大型案件の受注は堅調に推移し、国内売上高は27,442百万円（前年同期比0.7%増）となりました。

海外販売につきましては、タイにおいて平成24年10月より一部直接販売を開始するなど販売・サービス体制の強化を図るとともに、ソリューション提案を進めてまいりました結果、米国での買い控えや中国市場での販売停滞の影響等があったものの、検体検査機器、検体検査試薬の売上は堅調に推移し、全地域とも概ね順調に推移しました。その結果、対ユーロでの円高の影響を補い、当社グループの海外売上高は73,940百万円（前年同期比6.1%増）、構成比72.9%（前年同期比1.0ポイント増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は101,383百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は15,192百万円（前年同期比11.3%増）、経常利益は15,568百万円（前年同期比17.7%増）、四半期純利益は9,518百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

ソリューション提案を引き続き推進したことにより、主力の血球計数検査分野を中心に大型案件の受注は堅調に推移したものの、売上高は29,449百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

利益面につきましては、対ユーロでの円高の影響はあったものの、グループ間取引価格の見直し及びグループ会社への輸出売上の伸長等により、営業利益は7,790百万円（前年同期比21.6%増）となりました。

② 米州

米国では、「XNシリーズ」の認可手続きの長期化や医療保険改革法の行方に対する不透明感からの買い控えが一部影響し、血球計数検査分野を中心に機器売上は減少したものの、設置台数増加に伴い試薬やサービス売上が伸長し、増収となりました。一方、中南米においては一部の国で入札案件が減少したため、売上は横ばいとなりました。この結果、米州全体での売上高は20,405百万円（前年同期比3.4%増）となりました。

利益面につきましては、グループ間取引価格の見直しによる原価増と販売・サービス活動の強化や統括現地法人のオフィス移転に伴う販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は1,370百万円（前年同期比39.4%減）となりました。

③ 欧州

欧州債務危機による緊縮政策の影響が一部であったものの、「XNシリーズ」の販売本格化や直接販売・サービス活動の強化により、血球計数検査分野を中心に現地通貨ベースでは売上が好調に推移しましたが、円高の影響により、売上高は27,592百万円（前年同期比0.3%増）となりました。

利益面につきましては、円高の影響はあったものの、営業利益は4,192百万円（前年同期比7.6%増）となりました。

④ 中国

医療需要拡大に伴い、血球計数検査分野、血液凝固検査分野、尿検査分野において検体検査機器及び検体検査試薬の売上が大幅に伸長し、市場での販売停滞の影響が一部でみられたものの、売上高は17,988百万円（前年同期比25.1%増）となりました。

利益面につきましては、グループ間取引価格の見直しによる原価増等を増収効果により補い、営業利益は1,987百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

⑤ アジア・パシフィック

インドでは代理店契約更新の遅延による影響により減収となったものの、フィリピンでの直販化の進展やベトナムでの新規案件獲得等により、売上高は5,947百万円（前年同期比13.3%増）となりました。

利益面につきましては、販売・サービス体制整備による販売費及び一般管理費の増加はあったものの、原価率の低下により、営業利益は575百万円（前年同期比336.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末と比べて10,584百万円増加し、152,869百万円となりました。この主な要因は、現金及び預金が4,592百万円増加、商品及び製品が4,357百万円増加、建物及び構築物が1,437百万円増加したこと等によるものであります。

一方、負債合計は、前連結会計年度末と比べて2,115百万円増加し、41,897百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が1,276百万円増加、その他の流動負債のうち未払費用が1,119百万円増加したこと等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて8,468百万円増加し、110,971百万円となりました。この主な要因は、利益剰余金が5,815百万円増加したこと、為替換算調整勘定の借方残高減少により純資産を2,242百万円増加させたこと等によるものであります。また、自己資本比率は前連結会計年度末の71.6%から0.6ポイント増加して72.2%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末より4,597百万円増加し、26,435百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果得られた資金は、16,664百万円（前年同期比6,709百万円増）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益が15,299百万円（前年同期比2,115百万円増）、売上債権の減少額が3,617百万円（前年同期は1,426百万円の増加）となったものの、法人税等の支払額が5,975百万円（前年同期比331百万円増）となったこと等によるものであります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果使用した資金は、9,445百万円（前年同期比1,691百万円増）となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出が8,165百万円（前年同期比3,388百万円増）となったこと及び前期に事業譲受による支出が1,900百万円あったこと等によるものであります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果使用した資金は、3,464百万円（前年同期比762百万円増）となりました。この主な要因は、配当金の支払額が3,703百万円（前年同期比518百万円増）となったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間は、前年同期と比較して、売上高、営業利益ともに上回りました。第4四半期については、経済の先行き懸念や医療行政の動向など一部に不安定要素は存在するものの、概ね計画どおり推移することが見込まれることから、平成24年11月6日に公表いたしました平成25年3月期通期連結業績予想数値に変更はありません。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表等
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,362	25,955
受取手形及び売掛金	36,218	33,500
有価証券	745	591
商品及び製品	16,534	20,892
仕掛品	1,401	1,661
原材料及び貯蔵品	3,907	4,190
その他	10,341	10,820
貸倒引当金	△350	△466
流動資産合計	90,160	97,146
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,736	18,174
その他（純額）	23,103	25,768
有形固定資産合計	39,839	43,942
無形固定資産		
のれん	2,194	1,711
その他	4,709	4,772
無形固定資産合計	6,903	6,483
投資その他の資産	5,381	5,296
固定資産合計	52,124	55,723
資産合計	142,285	152,869
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,176	13,453
短期借入金	5	4
未払法人税等	2,776	2,099
賞与引当金	3,622	2,201
役員賞与引当金	248	179
製品保証引当金	157	128
その他	15,741	16,640
流動負債合計	34,728	34,706
固定負債		
長期借入金	4	1
退職給付引当金	1,263	1,607
役員退職慰労引当金	160	160
その他	3,624	5,422
固定負債合計	5,053	7,191
負債合計	39,782	41,897

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,187	9,471
資本剰余金	14,127	14,411
利益剰余金	83,484	89,299
自己株式	△255	△256
株主資本合計	106,543	112,926
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	426	365
繰延ヘッジ損益	△0	△10
為替換算調整勘定	△5,136	△2,893
その他の包括利益累計額合計	△4,709	△2,539
新株予約権	546	436
少数株主持分	122	147
純資産合計	102,502	110,971
負債純資産合計	142,285	152,869

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	96,913	101,383
売上原価	35,782	37,534
売上総利益	61,130	63,848
販売費及び一般管理費	47,475	48,656
営業利益	13,654	15,192
営業外収益		
受取利息	105	86
受取配当金	48	48
投資不動産収入	211	—
助成金収入	69	171
為替差益	—	91
その他	141	90
営業外収益合計	576	487
営業外費用		
支払利息	76	46
持分法による投資損失	45	8
投資不動産維持費	49	—
為替差損	751	—
その他	80	56
営業外費用合計	1,004	111
経常利益	13,226	15,568
特別利益		
固定資産売却益	12	11
新株予約権戻入益	2	10
その他	0	—
特別利益合計	16	22
特別損失		
固定資産除売却損	49	279
その他	9	12
特別損失合計	58	291
税金等調整前四半期純利益	13,183	15,299
法人税、住民税及び事業税	4,780	5,212
法人税等調整額	△194	550
法人税等合計	4,586	5,763
少数株主損益調整前四半期純利益	8,597	9,535
少数株主利益	13	17
四半期純利益	8,584	9,518

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,597	9,535
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△49	△61
繰延ヘッジ損益	15	△10
為替換算調整勘定	△3,661	2,249
その他の包括利益合計	△3,696	2,178
四半期包括利益	4,900	11,713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,897	11,689
少数株主に係る四半期包括利益	3	24

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	13,183	15,299
減価償却費	5,260	5,775
売上債権の増減額(△は増加)	△1,426	3,617
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,403	△3,985
仕入債務の増減額(△は減少)	834	1,205
その他	2,050	626
小計	15,499	22,538
利息及び配当金の受取額	139	133
利息の支払額	△39	△32
法人税等の支払額	△5,644	△5,975
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,955	16,664
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,777	△8,165
無形固定資産の取得による支出	△1,172	△1,422
事業譲受による支出	△1,900	—
その他	96	142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,754	△9,445
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	807	—
長期借入金の返済による支出	△4	△4
配当金の支払額	△3,184	△3,703
その他	△319	243
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,701	△3,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	△623	843
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,124	4,597
現金及び現金同等物の期首残高	18,915	21,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,791	26,435

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	30,029	19,736	27,519	14,376	5,250	96,913	—	96,913
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	29,743	1	338	4	94	30,182	△30,182	—
計	59,772	19,738	27,858	14,380	5,345	127,095	△30,182	96,913
セグメント利益	6,406	2,260	3,897	1,950	131	14,646	△992	13,654

(注) 1. セグメント利益の調整額△992百万円には、セグメント間取引消去64百万円、棚卸資産の調整額△1,109百万円、固定資産の調整額52百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「日本」セグメントにおいて、平成23年4月1日付で片倉工業株式会社の生物科学研究所とカイコを用いて診断薬の原料となるタンパク質を生産する事業を譲り受けました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,405百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	米州	欧州	中国	アジア・パ シフィック	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	29,449	20,405	27,592	17,988	5,947	101,383	—	101,383
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	32,437	1	341	3	118	32,904	△32,904	—
計	61,887	20,407	27,934	17,992	6,066	134,287	△32,904	101,383
セグメント利益	7,790	1,370	4,192	1,987	575	15,917	△724	15,192

(注) 1. セグメント利益の調整額△724百万円には、セグメント間取引消去195百万円、棚卸資産の調整額△1,009百万円、固定資産の調整額88百万円などが含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。